intra-mart ジャンプ・アップ・モジュール
Ver.7.0

インストールガイド

2009/10/30 第三版

<<　変更履歴　>>

変更年月日	変更内容
2008/07/31	初版
2008/10/23	第二版 「2 制限事項」にスタートパック 掲示板のソートに関する制限と対応方法を追記
2009/10/30	第三版 ■　「4.1.2 プログラムで使用していたデータのバックアップ」の内容を修正 ■　「4.3.1.1　IMv7.0 のインストール」に注意項目を追記 ■　「4.3.4.3　ログイングループの作成 ～ 初期データインポート」に注意項目を追記

<< 目次 >>

1 はじめに 2
1.1 概要 2
1.2 システム要件 2
1.3 用語解説 3
2 制限事項 4
3 移行手順 10
3.1 旧バージョンのバックアップ 10
3.1.1 アクセスセキュリティ情報のバックアップ 10
3.1.2 プログラムで使用していたデータのバックアップ 10
3.1.3 プログラムファイルのバックアップ 10
3.2 データ変換（旧バージョン → IMv7.0） 10
3.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換 10
3.3 インストール 11
3.3.1 intra-mart Ver7.0 のインストール 11
3.3.2 ジャンプ・アップ・モジュールのインストール 11
3.3.3 intra-mart Ver7.0 起動前の設定 11
3.3.4 intra-mart Ver7.0 の起動 12
3.4 プログラムファイル、および、データの反映 12
3.4.1 プログラムファイルの移行 12
3.4.2 データベース・データのインサート 12
3.4.3 アプリケーション共通マスタ・データのインサート 12
3.4.4 アクセスセキュリティ情報のインポート 13
4 移行手順（詳細） 14
4.1 旧バージョンのバックアップ 14
4.1.1 アクセスセキュリティ情報のバックアップ 15
4.1.2 プログラムで使用していたデータのバックアップ 17
4.1.3 プログラムファイルのバックアップ 18
4.2 データ変換（旧バージョン → IMv7.0） 19
4.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換 19
4.3 インストール 20
4.3.1 intra-mart Ver7.0 のインストール 20
4.3.2 ジャンプ・アップ・モジュールのインストール 21
4.3.3 intra-mart Ver7.0 起動前の設定 42
4.3.4 intra-mart Ver7.0 の起動 55
4.4 プログラムファイル、および、データの反映 57
4.4.1 プログラムファイルの移行 57
4.4.2 初期起動ファイルの設定 59
4.4.3 データベース・データのインサート 60
4.4.4 アプリケーション共通マスタ・データのインサート 60
4.4.5 アクセスセキュリティ情報のインポート 61

1 はじめに

1.1 概要

本ドキュメントでは、IM ジャンプ・アップ・モジュールを利用して、intra-mart Ver3.2 から Ver4.3 で作成されたアプリケーションを、intra-mart Ver7.0（以下 **IMv7.0**）へ移行する際の移行手順や制限事項について記述します。

ジャンプ・アップ・モジュールは、イントラネット・スタートパック Ver3.2（以下、ISPv3.2）を IMv7.0 上で動作させることを主眼において作成されています。ユーザが独自に作成したアプリケーションの移行も ISPv3.2 の移行と同様に行うことが可能です。ISPv3.2 をユーザ作成アプリケーションに適宜読み替えて移行作業を行ってください。

ジャンプ・アップ・モジュール Ver7.0 では、Ver4.0～Ver4.3 で公開されていた JavaEE 開発モデルの API（一部は除く）も利用できるようになります。

なお、ジャンプ・アップ・モジュールで移行されるワークフローは旧ワークフローです。Ver4.3 のビジネスプロセスワークフロー、ドキュメントワークフローは移行されません。また、プロトタイプウィザード、ポータル、および ViewCreator も移行対象外になります。

1.2 システム要件

intra-mart WebPlatform/AppFramework Version 7.0 のシステム要件に準拠します。
詳細は「intra-mart WebPlatform/AppFramework Version 7.0 リリースノート」をご参照ください。

ジャンプ・アップ・モジュール Ver7.0 は、以下の環境で検証を行っています。

- OS
  - Windows 2003 Enterprise Server SP2(R2)

- Web アプリケーションサーバ
  - Resin 3.1.6
  - IBM WebSphere Application Server Ver.6.1.0.15

- データベース
  - Microsoft SQL Server 2005 SP2
  - IBM DB2 9.5

- クライアント
  - Microsoft Internet Explorer 7.0
  - Firefox 3.0

以下の環境は未対応です。

- データベース
  - PostgreSQL 8.3

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データイントラマート All rights Reserved.

1.3 用語解説

IM ジャンプ・アップ・モジュール	intra-mart ver3.2 から ver4.3 で作成されたアプリケーションを、intra-mart ver7.0 で実行可能にするモジュールです。 以下、**ジャンプ・アップ・モジュール**と略します。
IM マイグレーション・ツール	アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタのデータを旧バージョン形式から IMv7.0 形式のデータに変換します。 以下、**マイグレーション・ツール** と略します。
IM インサート・ジェネレータ	汎用的なデータベースエクスポートツールで、複数のテーブルから一括して SQL INSERT 文を出力し別データベースなどに容易にデータ移行することが可能です。以下、**インサート・ジェネレータ** と略します。
intra-mart WebPlatform Ver7.0	以下、**IWP** と略します。 **IWP** をインストールしたディレクトリを**<%im_path%>**と略します。
intra-mart AppFramework Ver7.0	以下、**AFW** と略します。 AFW をインストールしたディレクトリを**<%im_path%>**と略します。
intra-mart DebugServer Ver7.0	以下、**DS** と略します。 **DS** をインストールしたディレクトリを**<%im_path%>**と略します。
intra-mart Server Manager	システム全体を管理するサーバです。以下、**imSM** と略します。 **imSM** をインストールしたディレクトリを**<%imSM_path%>**と略します。
intra-mart Service Platform	サービスを起動するためのサーバ本体です。以下、**imSP** と略します。
Application Runtime	アプリケーションの実行エンジンです。以下、**AppRuntime** と略します。 **AppRuntime** をインストールしたディレクトリを**<%AppRuntime_path%>**と略します。
Resource Service	スクリプト開発モデルのプログラムファイルを管理するサービスです。 以下、**ResourceSrv** と略します。 **ResourceSrv** をインストールしたディレクトリを**<%ResourceSrv_path%>**と略します。
Storage Service	ファイルを管理するサービスです。以下、**StorageSrv** と略します。 **StorageSrv** をインストールしたディレクトリを**<%StorageSrv_path%>**と略します。
Shared-Memory Service	共有メモリを管理するサービスです。以下、**SharedMemSrv** と略します。
Permanent-Data Service	永続データを管理するサービスです。以下、**PermDataSrv** と略します。
Serializasion Service	排他制御機能のためのサービスです。以下、**SerializeSrv** と略します。
Schedule Service	バッチの時間起動を制御するサービスです。 以下、**ScheduleSrv** と略します。
Web Server Connector	WebServer との連携用モジュールです。以下、**WSC** と略します。 **WSC** インストールしたディレクトリを**<%web_path%>**と略します。
intra-mart Administrator	システム全体の状態を見るためのビューアです。 以下、**imAdmin** と略します。

2 制限事項

ジャンプ・アップ・モジュールを適用して IWP/AFW を運用する際の制限事項は以下の通りです。

1. ジャンプ・アップ・モジュールが対応している、移行元 IWP/IAF のバージョンは Ver3.2, Ver4.0, Ver4.1, Ver4.2, Ver4.3 です。

2. ジャンプ・アップ・モジュールは、ISPv3.2 を IMv7.0 上で動作させることを主眼において作成されています。（ISPv3.2 を ISPv5.0 に移行するツールではありません） なお、移行時の ISPv3.2 はソース公開版であることを前提としています。

3. 「Module.database.*」を利用してログイングループのデータベースに接続する場合は、システムデータベースの接続名を、ログイングループ ID と同じ接続名に設定する必要があります。

4. 旧バージョンで作成したファイルアップロード／インポート処理は動作しません。
（RequestParameter オブジェクトを利用したファイルアップロード／インポート処理を修正する必要があります）

   （修正前） var filedata = request.xxxx;
   （修正後） var filedata = request.getParameterValue(“xxxx”);
   ※ “xxxx”にはパラメータ名称を指定します。

5. ブラウザに Internet Explorer を使用している場合、ファイルのダウンロード処理が実行されない場合があります。
ダウンロード処理が実行されない場合は、Internet Explorer の以下の設定を確認してください。

   ・[ツール(T)]＞[ポップアップブロック(P)]が無効になっているか。
   ・[ツール(T)]＞[インターネット オプション(O)]の[セキュリティ]タブから「レベルのカスタマイズ(C)」ボタンを押下して表示される画面で、ダウンロードの“ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示”項目が有効になっているか。

6. スタートパックのスケジュール画面（スケジュールの登録、更新、削除）は、FireFox では利用できません。
（スケジュールの登録、更新、削除画面を開くことができません。）

7. スタートパックの掲示板画面で、移行前に登録したデータと、移行後に登録したデータが双方存在する場合、移行後に登録したデータが、移行前に登録したデータの下に表示されます。
移行後に登録したデータを上部に表示させる場合は、以下の対応が必要になります。

   （対応方法）
   テーブル：「ISPNTCT_BULLETIN_INFO」から移行前に登録したデータを抽出して、
   カラム：「THREAD_CD」と「BULLETIN_INFO_CD」の情報を、頭ゼロ埋めで 13 桁から 15 桁に変更してください。

8. 旧ワークフローの Applet を利用した承認ルート設定等の画面は、FireFox では利用できません。
（承認ルートの表示は可能です。）

9. Request オブジェクトのプロパティ値は、既に Unicode コード体系に変換されています。
（旧バージョンでファイルアップロード処理を作成する際、Request オブジェクトのプロパティ値を明示的に Unicode コード体系に変換する必要がありましたが、IMv7.0 ではその必要はありません）

10. 以下の項目間で同一のコードを設定することはできません。同一のコードを設定した際、階層構造や所属情報が正しく取得できない場合があります。
    - 会社／組織コード
    - 役職コード

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データイントラマート All rights Reserved.

- パブリックグループコード
- プライベートグループコード
- ロール ID

11. 旧バージョンで作成した更新リスナー（例：アカウントの追加時に実行されるプログラム）は使用できません。
（Java クラスとして実装しなおす必要があります）

12. 旧バージョンの inrtra-mart からエクスポートしたメッセージ情報には、全てのメッセージ情報が含まれています。移行前にエクスポートデータを編集して移行先の環境に必要な最低限のメッセージにする必要があります。

13. 以下のスクリプト開発モデルの参照系互換 API は、ジャンプ・アップ・モジュールを適用することで利用可能となります。
（ジャンプ・アップ・モジュールを適用しない場合は、UnsupportedOperationException が発生し処理が終了します。）

参照系	AccountManager	get()
		getKeys()
	Batch	elements()
		entries()
		get()
		keys()
	RoleManager	getKeys()
		getParents()
		getIdByName()
		getList()
		get()
	Module.grouping	getStruct()

14. 以下のスクリプト開発モデルの更新系互換 API は、ジャンプ・アップ・モジュールを適用しても利用できません。
（UnsupportedOperationException が発生し処理が終了します。代替メソッドを利用してください）

更新系	AccountManager	set()
		del()
	Batch	set()
		extinction()
		remove()
	Module.grouping	delBelongInfo()
		deleteData()
		deletePostData()
		insertData()
		insertPostData()
		setBelongInfo()
		updateData()
		updatePostData()

15. アプリケーション共通マスタ関連の期間化・国際化データは、システムの現在日時で有効、および、ロケールが「ja」に該当するデータを検索対象とします。
（ジャンプ・アップ・モジュールで利用する View の検索対象条件は以下の通りです）
    - システムの現在日時で有効、かつ、ロケールが「ja」に該当するデータを検索対象とする View
        - b_m_grouping
        - b_m_post
        - b_m_user
    - システムの現在日時で有効なデータを検索対象とする View
        - b_m_attach
        - b_m_category
        - b_m_inclusion
    - ロケールが「ja」に該当するデータを検索対象とする View
        - b_m_category_cls
        - b_m_category_detail
        - b_m_zone

16. IMv7.0 で SQL Server を利用する場合、大文字・小文字を区別するようにデータベースを作成してください。以下の方法により大文字、小文字を区別する設定が可能です。

> ■ SQL Server が大文字・小文字を区別する設定方法
> EnterpriseManager より、新規データベースを作成する際に、データベースのプロパティ-[全般]-保守-照合順序名を「Japanese_CS_AS_KS_WS」としてください。

17. 以下のタグの action 属性、および、オブジェクト関数の引数に対して、存在しない関数を指定することはできません。（「java.lang.IllegalArgumentException: Function is not found・・・」が発生し処理が終了します）
    - <IMART type="form" action="関数名">
    - <IMART type="link" action="関数名">
    - <IMART type="submit" action="関数名">
    - URL.setAction("関数名")

18. インポート／エクスポート系 API「Module.access.*」は、旧バージョン形式のファイル（タブ区切りのテキストデータ）を扱うことはできません。（マイグレーション・ツールを利用して IMv7.0 形式のファイル（XML ファイル）に変換してください）

19. Ver1.x 互換用 API「Module.file」の各種メソッドにおいて、「Intra-Mart ルートからの相対パス」が、「Application Runtime をインストールしたディレクトリ内にある work/ ディレクトリからの相対パス」に変更されました。

20. 旧バージョンから移行したメニュー情報のうち、以下のメニュー情報（下位メニュー含む）は不要となるため削除してください。
    - [システム設定] メニュー （[システム設定]-[リンク]を除く）
    - [ユーザ設定] メニュー
    - [UNIT] メニュー （[UNIT]-[アプリケーション共通マスタ]-[商品マスタ]を除く）
    - [サンプル] メニュー
    - [プロトタイプウィザード] メニュー

21. 旧バージョンのプライベートグループに関するデータは移行できません。

22. 旧バージョンのアプリケーション共通マスタで利用されていた予約フィールドは移行できません。

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データイントラマート All rights Reserved.

23. 旧バージョンのポータル関連プログラムは移行できません。
（新しいポータルの仕様に則って、ポートレットを作り直す必要があります）

24. 旧バージョンの商品マスタ関連データを、IMv7.0 の商品マスタに移行することはできません。
（旧バージョンの商品マスタ・データ、および、マスタメンテをご利用ください）

25. 旧バージョンのワークフロー関連データを、IMv7.0 のワークフロー（BPW）に移行することはできません。
（旧ワークフローへの移行は可能です（例：IMv3.2 のワークフローは、IMv7.0 の旧ワークフローへ移行可能））

26. プロトタイプウィザードは移行できません。

27. 旧バージョンの ViewCreator は移行できません。

28. 統合検索モジュール（ConceptBase 連携）を利用して作成されたプログラムは移行できません。
（IMv7.0 の ConceptBase 連携サンプルを参考に再作成してください）

29. マイグレーション・ツール、および、インサート・ジェネレータで対応している DB のカラム型は「VARCHAR」と「DECIMAL」のみです。

30. マイグレーション・ツールは、旧バージョンの b_m_category_cls テーブルデータを移行しません。（旧バージョンで独自に分類区分を作成した場合は、別途移行作業が必要です）

31. マイグレーション・ツール、および、インサート・ジェネレータの実行には JDK1.4.x と それに対応した JDBC ドライバが必要です。

32. Weblogic を利用して、旧ワークフローを実行した際、以下の警告がコンソールに表示されることがあります。（動作には支障ありません）

メソッドの getParameter ファミリの 1 つが ServletInputStream から読み込み後に呼び出されました。post パラメータを結合しません。

33. IMv3.2 で公開されている API の中で、互換対象外の API は以下の通りです。

オブジェクト	メソッド
Module.access	**setMessage()**
	getMessage()
	delAllMessage()
	dbConsistChk()
	acntFromISToDB()
	acntFromDBToIS()
Procedure.portal	**getUrl()**
AccountManager	**set()**
	del()
Batch	**set()**
	extinction()
	remove()
RoleManager	**set()**
	del()
Module.grouping	**delBelongInfo()**
	deleteData()
	insertData()
	setBelongInfo()
	updateData()

34. ジャンプ・アップ・モジュール Ver7.0 では、JavaEE 開発モデルの API も利用できますが、互換対象は Ver4.0～Ver4.3 の API リストに記載されているものに限られます。API についての詳細は、当該の API リストを参照してください。

35. 以下の JavaEE 開発モデルの更新系互換 API は、ジャンプ・アップ・モジュールを適用しても利用できません。（UnsupportedOperationException が発生します。代替メソッドを利用してください）

クラス	メソッド
jp.co.intra_mart.foundation.acssecurity.AccountManager	**setData()**
	delData()
jp.co.intra_mart.foundation.appcomn.Grouping	**insertData()**
	insertPostData()
	updateData()
	updatePostData()
	deleteData()
	deletePostData()
	setAttachInfo()
	delAttachInfo

36. JavaEE 開発モデルの API の中で、互換対象外の API は以下の通りです。（以下メソッドは存在しないか、または存在しても正しく動作しません）

クラス	メソッド
jp.co.intra_mart.foundation.database.ConInfo	**getDBInfo()**
jp.co.intra_mart.foundation.database.SessionQuery	**addURL()**
	getQuery()
	getQueryName()
jp.co.intra_mart.foundation.scenario.PresentationPage	**location()**
jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Identifier	**action()**
	connection()
jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.information.ProgramDirectory	**childDirectories()**
	childFiles()
	files()
	findDirectory()
	findFile()
	findPath()
	instance()
jp.co.intra_mart.foundation.utility.EventQueueController	**handleShutdown()**
jp.co.intra_mart.foundation.utility.net.SocketPool	**deposit()**
	getAddress()
	getPort()
jp.co.intra_mart.foundation.utility.report.ReportFileWriter	**handleShutdown()**
jp.co.intra_mart.framework.base.service.IntramartConnectServlet	**doGet()**
	doPost()
	execute()
	getServiceManager()
	getServicePropertyHandler()
	getSessionManager()
	getSessionPropertyHandler()
	init()
jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection	**setTimer()**
jp.co.intra_mart.foundation.acssecurity.AcsData	**acntFromDBToIS()**
	acntFromISToDB()
	dbConsistChk()
	delAllAccount()
	delAllMessage()
	getMessage()
	setAccount()
	setMessage()
jp.co.intra_mart.foundation.appcomn.Grouping	**delBelongInfo()**
	setBelongInfo()

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データイントラマート All rights Reserved.

intra-mart Ver4.0 ～ Ver4.2 までの外部ソフトウェア接続モジュールを利用する場合は、**<%AppRuntime_path%>**/doc/imart/WEB-INF/web.xmlを編集する必要があります。編集方法については、「4.3.3.6 外部ソフトウェア接続モジュール利用時の設定」を参照してください。

3 移行手順

以下の手順で移行を行ってください。

3.1 旧バージョンのバックアップ

3.1.1 アクセスセキュリティ情報のバックアップ

旧バージョンの intra-mart からアクセスセキュリティ情報のエクスポートを行います。

参照		ページ
4.1.1.1	一括バックアップ	15
4.1.1.2	メッセージ情報の編集	16

3.1.2 プログラムで使用していたデータのバックアップ

旧バージョンの intra-mart で作成したプログラムが使用していたデータをバックアップします。

参照		ページ
4.1.2	プログラムで使用していたデータのバックアップ	17

3.1.3 プログラムファイルのバックアップ

旧バージョンの intra-mart で作成したプログラムファイルをバックアップします。

参照		ページ
4.1.3	プログラムファイルのバックアップ	18

3.2 データ変換（旧バージョン → IMv7.0）

3.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換

マイグレーション・ツールを利用して、アクセスセキュリティ情報を旧バージョン形式から IMv7.0 形式に変換、および、旧バージョンのアプリケーション共通マスタ・データから IMv7.0 のデータベース用の insert 文を作成します

参照		ページ
4.2.1	アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換	19

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データイントラマート All rights Reserved.

3.3 インストール

3.3.1 intra-mart Ver7.0 のインストール

IMv7.0 をインストールします。

参照		ページ
4.3.1.1	IMv7.0 のインストール	20

【注意】

- 「サンプルをインストール」のチェックをはずしてインストールを行ってください。
- IMv7.0 スタンダード版でインストールした場合、「4.3.3.5.1 旧ワークフローを利用しない場合」の設定を行ってください。
  この設定を行わないと、初期データインポートの実行時にエラー(java.lang.ExceptionInInitializerError)が発生します。

3.3.2 ジャンプ・アップ・モジュールのインストール

ジャンプ・アップ・モジュールのインストールを行います。

参照		ページ
4.3.2.1	インストーラの起動と操作	21
4.3.2.2	注意事項	22
4.3.2.3	intra-mart WebPlatform(Resin)にインストール	23
4.3.2.4	intra-mart AppFrameworkにインストール	32
4.3.2.5	intra-mart DebugServerにインストール	40

3.3.3 intra-mart Ver7.0 起動前の設定

intra-mart Ver7.0 起動前の設定を行います。

参照		ページ
4.3.3.1	ライセンスの登録	42
4.3.3.2	WebServerの設定	43
4.3.3.3	Application Serverの設定	43
4.3.3.4	データベース接続の設定	44
4.3.3.5	system-install_compatible.xmlの編集	48
4.3.3.6	外部ソフトウェア接続モジュール利用時の設定	50

【注意】

- システムデータベースの接続名を、ログイングループ ID と同じ接続名に設定する必要があります。

3.3.4 intra-mart Ver7.0 の起動

intra-mart Ver7.0 を起動します。

参照		ページ
4.3.4.1	IMv7.0 の起動	55
4.3.4.2	Application Serverの起動	55
4.3.4.3	ログイングループの作成 ～ 初期データインポート	55
4.3.4.4	Viewの作成、および、初期データ登録	56

【注意】

- **サンプルデータのインポートは行わないでください。**
- **IMv7.0 スタンダード版でインストールした場合、「4.3.3.5.1 旧ワークフローを利用しない場合」の設定を行ってください。**
  この設定を行わないと、初期データインポートの実行時にエラー(java.lang.ExceptionInInitializerError)が発生します。

3.4 プログラムファイル、および、データの反映

3.4.1 プログラムファイルの移行

旧バージョンで作成したプログラムファイルを、移行先の IMv7.0 に反映します。

参照		ページ
4.4.1	プログラムファイルの移行	57
4.4.2	初期起動ファイルの設定	59

【注意】

- **AFW をご利用の場合は、プログラムファイルの移行後に再デプロイが必要です。**
- **コピーするファイルは、IWP/AFW/DS をインストールした際に指定した「サーバモジュールの文字コード」と同一の文字コードに変換する必要があります。**
- **初期起動ファイルの設定は、必ず<%ResourceSrv_path%>/pages/platform/src/compatible/init.js に記述してください。**

3.4.2 データベース・データのインサート

旧バージョンで利用していたデータベース・データを、移行先の IMv7.0 に反映します。

参照		ページ
4.4.3	データベース・データのインサート	60

3.4.3 アプリケーション共通マスタ・データのインサート

旧バージョンで利用していたアプリケーション共通マスタ・データを、移行先の IMv7.0 に反映します。

参照		ページ
4.4.4	アプリケーション共通マスタ・データのインサート	60

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データイントラマート All rights Reserved.

3.4.4 アクセスセキュリティ情報のインポート

旧バージョンで利用していたアクセスセキュリティ情報を、移行先の IMv7.0 に反映します。

参照		ページ
4.4.5.1	メッセージデータの移行	61
4.4.5.2	アクセスセキュリティ情報のインポート	61
4.4.5.3	アクセスセキュリティ情報（リンクデータ）のインポート	62

4 移行手順（詳細）

本章では、旧バージョンの intra-mart で作成されたアプリケーションを、IMv7.0 上で動作させるための移行手順の詳細を示します。
以下、イントラネット・スタートパック Ver3.2（以下 ISPv3.2）を IMv7.0 上で動作させるまでを例にして、移行手順を説明します。ユーザが独自に作成したアプリケーションの移行もこれと同様に行うことが可能です。ISPv3.2 をユーザ作成アプリケーションに適宜読み替えて移行作業を行ってください。

本ドキュメントは以下のドキュメントを参照します。あわせてご用意ください。

- 「intra-mart WebPlatform Ver7.0 セットアップガイド / AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」
- IM インサート・ジェネレータ 利用ガイド
- IM マイグレーション・ツール 利用ガイド

4.1 旧バージョンのバックアップ

まず、旧バージョンで利用していた各種データ、および、プログラムファイルをバックアップします。
バックアップを行う必要のあるデータは以下の通りです。

- アクセスセキュリティ情報
  - ユーザ（アカウント）
  - ロール
  - メニュー
  - カレンダー
  - バッチ
  - メッセージ
  - リンク

- プログラムで使用していたデータ
  - ユーザ作成テーブルの DB データ
  - 旧ワークフロー関連の DB データ （旧ワークフローを利用しない場合はバックアップ不要です）
  - 旧商品マスタ関連の DB データ （旧商品マスタを利用しない場合はバックアップ不要です）

- プログラムファイル（各 Server の名称は IMv3.2 環境の名称です）
  - Information Server の pages ディレクトリ配下のファイル
  - File Server の storage ディレクトリ配下のファイル
  - Application Server の doc/imart ディレクトリ配下のファイル
  - WebServerConnectoer 配下のファイル

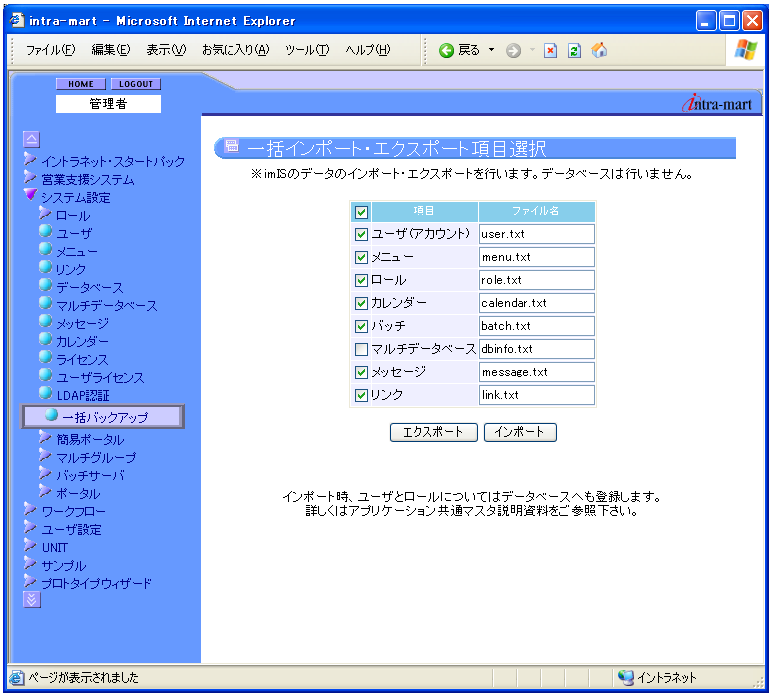
Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1 アクセスセキュリティ情報のバックアップ

旧バージョンの intra-mart で利用していたアクセスセキュリティ情報のエクスポートを行います。

4.1.1.1 一括バックアップ

1. 旧バージョンの intra-mart を起動し、管理者権限のあるユーザでログインします。
2. [システム設定]-[一括バックアップ]メニューを表示します。
3. バックアップ対象の項目を選択し、ファイル名を入力します。
4. [エクスポート]ボタンを押下し、アクセスセキュリティ情報をエクスポートします。



※ 各ファイルは、現在ログインしているログイングループのデータが対象になります。

※ マルチデータベース情報のエクスポートを実行する必要はありません。

ここでは、以下のファイルが File Server の storage ディレクトリに出力されました。

- アクセスセキュリティ情報
  - user.txt
  - role.txt
  - menu.txt
  - calendar.txt
  - batch.txt
  - message.txt
  - link.txt

4.1.1.2 メッセージ情報の編集

「4.1.1.1 一括バックアップ」にて出力された「message.txt」ファイルには、旧バージョンのintra-martで利用していたメッセージ情報が全て含まれています。移行前に「message.txt」ファイルを編集して、移行先の環境に必要な最低限のメッセージに編集してください。(「message.txt」ファイルをユーザが新規に作成したメッセージだけに編集することをお勧めします)

具体的には、IMv7.0 に初期設定されているメッセージをそのまま利用する場合は、「message.txt」ファイルから該当メッセージの行を削除します。旧バージョンのメッセージを利用する場合は、IMv7.0 のメッセージファイルから該当メッセージの行を削除します。

IMv7.0 のメッセージファイルは**<%imSM_path%>/conf/message** ディレクトリのプロパティファイルです。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2 プログラムで使用していたデータのバックアップ

旧バージョンの intra-mart で作成したプログラムが使用していたデータをバックアップします。

バックアップを行う必要のあるデータは、「旧ワークフロー関連」、「旧商品マスタ関連」および「ISPv3.2 関連」のデータベース・データです。

※ 旧ワークフロー、および、旧商品マスタをご利用にならない場合は、該当データのバックアップは不要です。

※ アプリケーション共通マスタのデータに関しては、「4.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換」にて移行データを作成します。

上記データベース・データのバックアップを行うための支援ツールとして IM インサート・ジェネレータ（以下、インサート・ジェネレータ）が用意されています。インサート・ジェネレータは汎用的なデータベースエクスポートツールで、複数のテーブルから一括して SQL INSERT 文を出力し別 DB などに容易にデータ移行することが可能です。

インサート・ジェネレータの利用方法は、インサート・ジェネレータの利用ガイドを参照してください。

なお、本製品の CD-ROM に、「旧ワークフロー関連」、「旧商品マスタ関連」および「ISPv3.2 関連」のデータベース・データをエクスポートするビルドファイルが付属しています。サンプルとしてご利用ください。

エクスポート対象データ	ビルドファイル名
旧ワークフロー	im_jump70/sample/wkf_build.xml
旧商品マスタ	im_jump70/sample/item_build.xml
ISPv3.2	im_jump70/sample/isp_build.xml

ここでは、テーブル単位で以下のファイルが出力されました。

- データベース・データ
  - 旧ワークフロー関連 DB データの SQL INSERT 文
  - 旧商品マスタ関連 DB データの SQL INSERT 文
  - ISPv3.2 関連 DB データの SQL INSERT 文

4.1.3 プログラムファイルのバックアップ

旧バージョンの intra-mart で作成したプログラムファイルをバックアップします。

ISPv3.2 で利用していたファイル群をバックアップします。バックアップを行う必要のあるデータは「Information Server の pages ディレクトリ配下のファイル」、「File Server の storage ディレクトリ配下のファイル」、「Application Server の doc/imart ディレクトリ配下のファイル」および「WebServerConnectoer 配下のファイル」です。

ここでは、以下のファイルをバックアップしました。(ISPv3.2 をスタンドアロンで利用していた場合の例です)

項番	Server 名	バックアップファイル
1	Application Server (WebServerConnectoer 配下のファイル含む)	**doc/imart/gif** ディレクトリ配下の全ファイル **doc/imart/img** ディレクトリ配下の全ファイル **doc/imart/startpack** ディレクトリ配下の全ファイル **doc/imart/sfa** ディレクトリ配下の全ファイル
2	Information Server	**pages/startpack** ディレクトリ配下の全ファイル **pages/sfa** ディレクトリ配下の全ファイル
3	File Server	**storage/startpack** ディレクトリ配下の全ファイル

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.2 データ変換（旧バージョン → IMv7.0）

4.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換

ここでは、前章の「4.1.1 アクセスセキュリティ情報のバックアップ」でエクスポートしたアクセスセキュリティ情報を、IMv7.0 で利用可能なデータ形式に変換します。あわせて、旧バージョンのintra-martで利用していたDBに接続し、IMv7.0 のアプリケーション共通マスタ用INSERT文を出力します。

IMv7.0 形式へのデータ変換には IM マイグレーション・ツール（以下、マイグレーション・ツール）を利用します。マイグレーション・ツールは、旧バージョンで使用していたアクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタのデータを IMv7.0 形式のデータに変換するツールです。

マイグレーション・ツールの利用方法は、マイグレーション・ツールの利用ガイドを参照してください。
移行対象ごとの旧バージョンと IMv7.0 のデータ形式対応関係は以下の通りです。

移行対象	データ形式	
	入力（旧バージョン）	出力(IMv7.0)
ユーザ（アカウント）	user.txt (タブ区切りデータ)	user.xml (XML 形式)
メニュー	menu.txt (タブ区切りデータ)	menu.xml (XML 形式)
ロール	role.txt (タブ区切りデータ)	role.xml (XML 形式)
カレンダー	calendar.txt (タブ区切りデータ)	calendar.xml (XML 形式)
バッチ	batch.txt (タブ区切りデータ)	batch.xml (XML 形式)
メッセージ	message.txt (タブ区切りデータ)	message_ja.properties （プロパティファイル形式）
ユーザ（プロファイル）	DB から取得	profile.sql (insert 文)
会社・組織	DB から取得	company.sql (insert 文)
会社・組織所属	DB から取得	companyAttach.sql (insert 文)
分類区分詳細	DB から取得	category.sql (insert 文)
役職	DB から取得	post.sql (insert 文)
パブリックグループ	DB から取得	public.sql (insert 文)
パブリックグループ所属	DB から取得	publicAttach.sql (insert 文)

ここでは、上記表の出力欄に記載されているファイルが出力されました。

【注意】

- **変換後のアクセスセキュリティ情報ファイル（XML 形式）に関して、ID 項目（バッチ ID、メニューID 等）の文字列長が 20 バイト以内となっていることを確認してください。（20 バイトより大きい場合は、適宜短縮してください）**

4.3 インストール

IMv7.0、および、ジャンプ・アップ・モジュールのインストールを行います。

4.3.1 intra-mart Ver7.0 のインストール

4.3.1.1 IMv7.0 のインストール

IMv7.0 のインストールを行います。

IMv7.0 のインストール方法詳細は、「intra-mart WebPlatform Ver7.0 セットアップガイド / AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の「3.2 intra-mart Ver7.0 のインストール」を参照してください。

【注意】

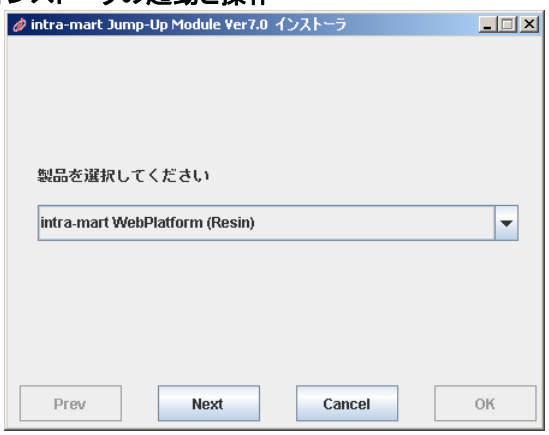
- 「サンプルをインストール」のチェックをはずしてインストールを行ってください。
- IMv7.0 スタンダード版でインストールした場合、「4.3.3.5.1 旧ワークフローを利用しない場合」の設定を行ってください。
  この設定を行わないと、初期データインポートの実行時にエラー(java.lang.ExceptionInInitializerError)が発生します。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2 ジャンプ・アップ・モジュールのインストール

ジャンプ・アップ・モジュールのインストールを行います。

4.3.2.1 インストーラの起動と操作



インストーラの起動および操作は以下のように行います。

■ **Windows の場合**

- java.exe コマンドにパスが通っていることを確認します。
- エクスプローラで本製品の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
- im_jump7.0¥installディレクトリへ移動します。[1]
- **setup.jar** をダブルクリックし起動します。
- インストーラの画面が表示されます。
- 画面の設定項目を設定して、[Next]ボタンを押します。以下同様
- 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[OK]ボタンを押します。（間違っていた場合は、[Prev]ボタンで戻り、設定し直してください）
- インストールが開始されます。

■ **Solaris 、Linux の場合**

- java コマンドにパスが通っていることを確認します。
- コンソール画面で本製品の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
- im_jump7.0/installディレクトリへ移動します。[1]
- コンソールから java -jar ./setup.jar と入力します。
- インストーラの画面が表示されます。
- 画面の設定項目を設定して、[Next]ボタンを押します。以下同様
- 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[OK]ボタンを押します。（間違っていた場合は、[Prev]ボタンで戻り、設定し直してください）
- インストールが開始されます。

なお、Solaris および Linux では、Xwindow が起動しているマシンでインストールする場合だけ、インストーラのウィンドウが表示されます。
Xwindow が起動していない場合、コンソールでの対話形式でインストールを行います。

[1] ジャンプ・アップ・モジュールの提供形態によって、インストーラの格納場所が異なる場合があります。

4.3.2.2 注意事項

この章で説明するマシン構成は、下記の状況を想定してインストールする場合の <例> となっています。

- ■ OS : Windows
- ■ サーバモジュールの文字コード : Windows-31J
- ■ ウェブブラウザへ送信する文字コード : Shift_JIS

他の OS にインストールする場合は、OS に合わせて各文字コードを選択してください。
（ただし、多言語環境を構築する際は、「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」に「**UTF-8**」を選択してください。）

IWP/AFW のインストール時に、下記の事項に関してチェックすることを推奨します。

- **IWP/AFW** サーバの構成
- **IWP/AFW** をインストールしたディレクトリ
- **WSC** をインストールしたディレクトリ
- **AppRuntime** のコンテキストルート (標準は doc/imart)
- **ResourceSrv** コンテンツのルートディレクトリ(標準は pages)
- **StorageSrv** コンテンツのルートディレクトリ(標準は storage)

インストールの際に必要となる、入力項目の注意点を説明します。

（※1） **JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ**

AppRuntime のコンテキストルートを意味します。
標準は、**IWP/AFW** をインストールしたディレクトリの「**/doc/imart**」です。
IWP/AFW インストール後に変更していなければ、初期値のままで先に進んでください。

（※2） **スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ**

ResourceSrv コンテンツのルートディレクトリを意味します。
標準は、**IWP/AFW** をインストールしたディレクトリの「**/pages**」です。
IWP/AFW インストール後に変更していなければ、初期値のままで先に進んでください。

（※3） **Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ**

StorageSrv コンテンツのルートディレクトリを意味します。
標準は、**IWP/AFW** をインストールしたディレクトリの「**/storage**」です。
IWP/AFW インストール後に変更していなければ、初期値のままで先に進んでください。

（※4）多言語環境を構築する際は、「サーバモジュールの文字コード」、および、
「ウェブブラウザへ送信する文字コード」に「**UTF-8**」を選択してください。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.3 intra-mart WebPlatform(Resin)にインストール

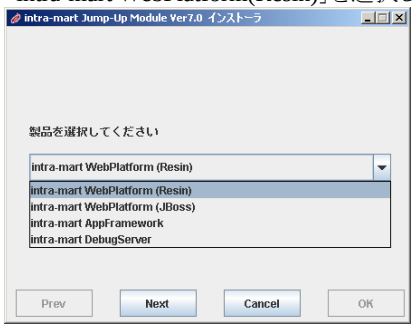
4.3.2.3.1 intra-mart WebPlatform(Resin)をスタンドアロン型でインストールしている場合

インストール手順は以下の通りです。

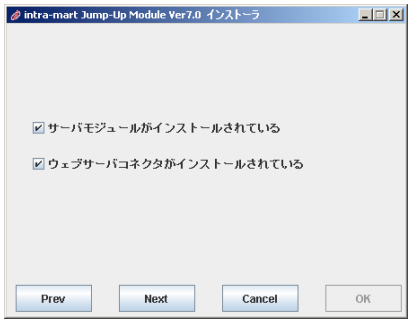
項番	手順	入力
1	製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin)　2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework　　4:intra-mart DebugServer)?	**1**
2	サーバモジュールがインストールされている(y/n)?	**y**
3	ウェブサーバコネクタがインストールされている(y/n)?	**n**
4	サーバモジュールのルートディレクトリを入力してください	**IWP をインストールしたディレクトリをフルパスで入力してください**
5	ウェブサーバコネクタのルートディレクトリを入力してください	**WSC をインストールしたディレクトリをフルパスで入力してください**
6	サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	**1**
7	HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバを使用している 2:ウェブサーバコネクタを使用している)?	**1**
8	サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**1（※4）**
9	ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**2（※4）**
10	JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）	フルパスで入力してください
11	スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）	フルパスで入力してください
12	Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）	フルパスで入力してください
13	この構成でよろしいですか(y/n)?	**y**

- 項番 5 は、項番 3「ウェブサーバコネクタがインストールされている」が選択された場合に表示されます。
- 項番 7 は、項番 3「ウェブサーバコネクタがインストールされている」が選択されなかった場合に表示されます。

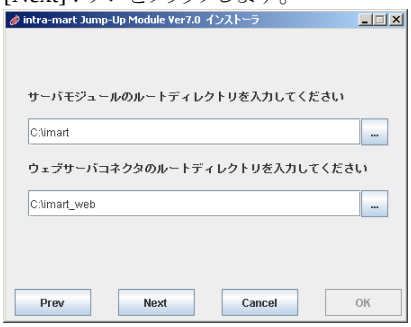
(1) 「intra-mart WebPlatform(Resin)」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。



(2) インストール対象のモジュールを選択して、[Next]ボタンをクリックします。



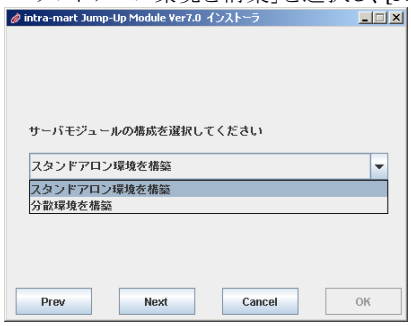
(3) **IWP** をインストールしたディレクトリ、および、**WSC** をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



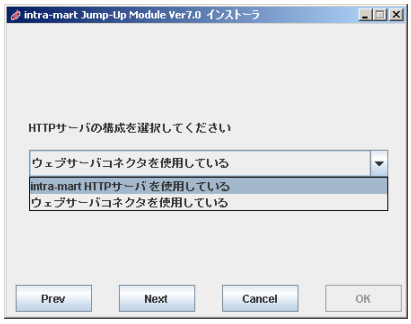
※**WSC** のルートディレクトリに関する項目は、前画面で「ウェブサーバコネクタがインストールされている」を選択した場合に表示されます。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

(4) 「スタンドアロン環境を構築」を選択し、[Next]ボタンをクリックします。

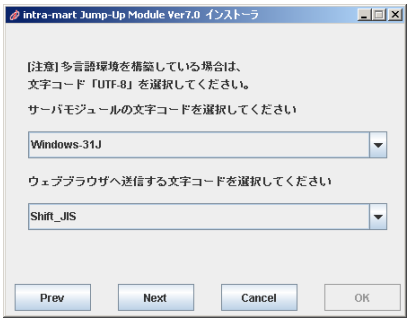


(5) 「intra-martHTTP サーバを使用している」を選択し、[Next]ボタンをクリックします。



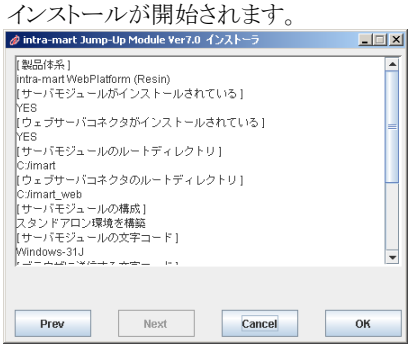
※本画面は、(2)にて「ウェブサーバコネクタがインストールされている」が選択されなかった場合に表示されます。

(6) 「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

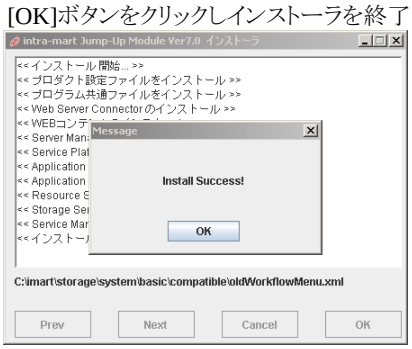


(7) 「JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ (※1)」、
「スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ (※2)」、
「Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ (※3)」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。

(8) 設定した内容を確認して間違いがなければ[OK]ボタンをクリックして下さい。
インストールが開始されます。



(9) インストールが完了するとダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをクリックしインストーラを終了してください。



Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.3.2 intra-mart WebPlatform(Resin)をネットワーク分散型でインストールしている場合

以下のモジュールに対して、ここで説明する手順を繰り返し、インストールしてください。

- intra-mart Server Manager
- Application Runtime
- Resource Service
- Storage Service
- Web Server Connector

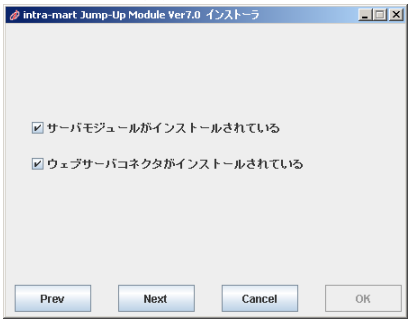
インストール手順は以下の通りです。

項番	手順	入力
1	製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin)　2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework　4:intra-mart DebugServer)?	**1**
2	サーバモジュールがインストールされている(y/n)?	**y**
3	ウェブサーバコネクタがインストールされている(y/n)?	**n**
4	サーバモジュールのルートディレクトリを入力してください	**IWP をインストールしたディレクトリをフルパスで入力してください**
5	ウェブサーバコネクタのルートディレクトリを入力してください	**WSC をインストールしたディレクトリをフルパスで入力してください**
6	サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	**2**
7	Server Manager コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
8	Application Runtime コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
9	Resource Service コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
10	Storage Service コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
11	HTTP サーバの構成を選択してください (1:intra-mart HTTP サーバを使用している 2:ウェブサーバコネクタを使用している)?	**1**
12	サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**1（※4）**
13	ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**2（※4）**
14	JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）	フルパスで入力してください
15	スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）	フルパスで入力してください
16	Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）	フルパスで入力してください
17	この構成でよろしいですか(y/n)?	**y**

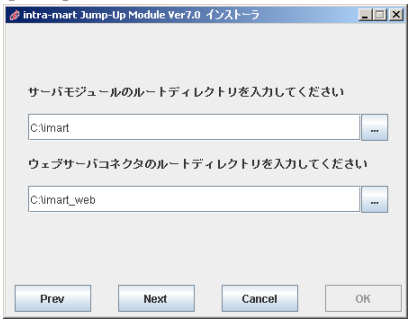
- 項番 5 は、項番 3「ウェブサーバコネクタがインストールされている」が選択された場合に表示されます。
- 項番 11 は、項番 3「ウェブサーバコネクタがインストールされている」が選択されず、かつ、項番 8「Application Runtime コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。
- 項番 14 は、項番 8「Application Runtime コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。
- 項番 15 は、項番 9「Resource Service コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。
- 項番 16 は、項番 10「Storage Service コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。

(1) 「intra-mart WebPlatform(Resin)」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(2) インストール対象のモジュールを選択して、[Next]ボタンをクリックします。



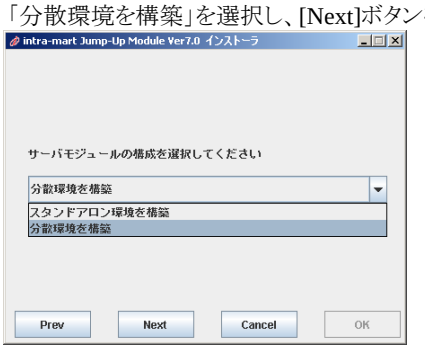
(3) **IWP** をインストールしたディレクトリ、および、**WSC** をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



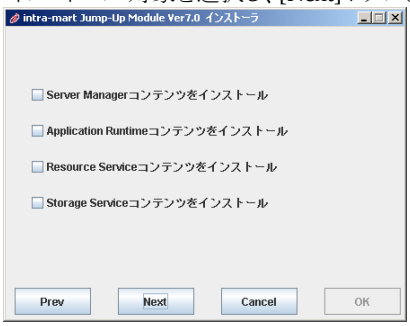
※**WSC** のルートディレクトリに関する項目は、前画面で「ウェブサーバコネクタがインストールされている」を選択した場合に表示されます。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

(4) 「分散環境を構築」を選択し、[Next]ボタンをクリックします。



(5) インストール対象を選択し、[Next]ボタンをクリックします。



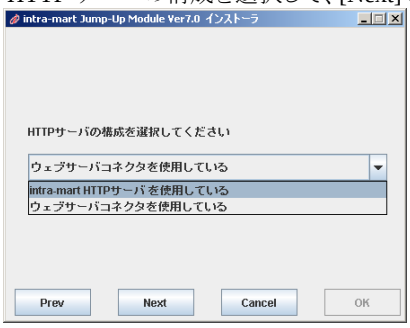
(ア) **intra-mart Server Manager** がインストールされている場合は、
「Server Manager コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(イ) **Application Runtime** がインストールされている場合は、
「Application Runtime コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

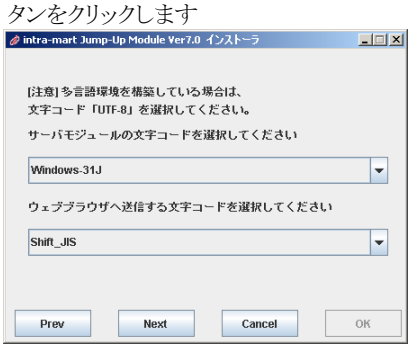
(ウ) **Resource Service** がインストールされている場合は、
「Resource Service コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(エ) **Storage Service** がインストールされている場合は、
「Storage Service コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(6) **「ウェブサーバコネクタがインストールされている」が選択されず、**
「Application Runtime コンテンツをインストール」を選択した場合のみ:
HTTP サーバの構成を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

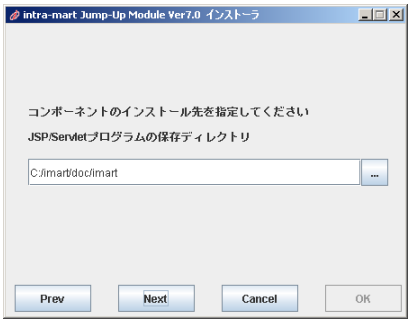


(7) 「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」を選択して、[Next]ボタンをクリックします



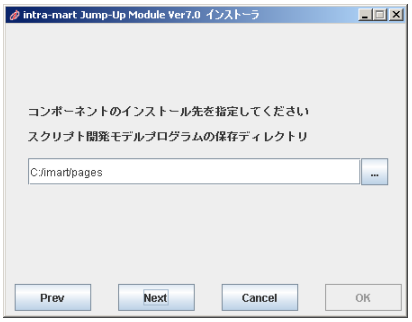
(8) **「Application Runtime コンテンツをインストール」を選択した場合のみ:**

「JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



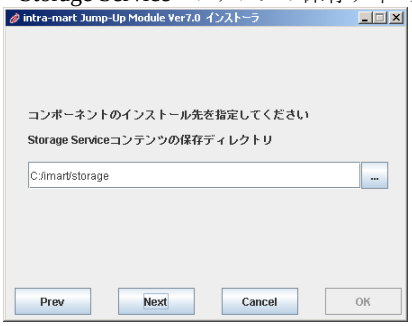
(9) **「Resource Service コンテンツをインストール」を選択した場合のみ:**

「スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



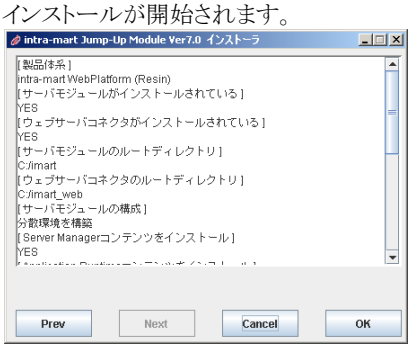
(10) **「Storage Service コンテンツをインストール」を選択した場合のみ:**

「Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。

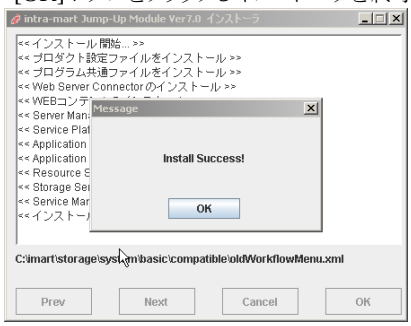


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

(11) 設定した内容を確認して間違いがなければ[OK]ボタンをクリックして下さい。
インストールが開始されます。



(12) インストールが完了するとダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをクリックしインストーラを終了してください。



4.3.2.4 intra-mart AppFrameworkにインストール

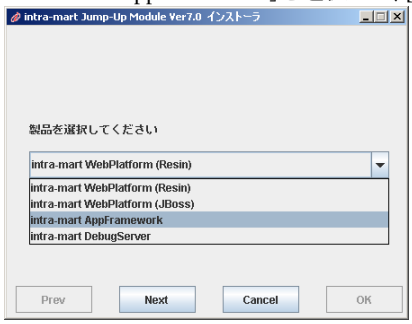
4.3.2.4.1 intra-mart AppFrameworkをスタンドアロン型でインストールしている場合

インストール手順は以下の通りです。

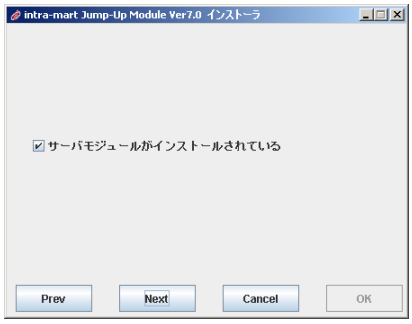
項番	手順	入力
1	製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin)　2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework　4:intra-mart DebugServer)?	**3**
2	サーバモジュールがインストールされている(y/n)?	**y**
3	サーバモジュールのルートディレクトリを入力してください	**AFW をインストールしたディレクトリを フルパスで入力してください**
4	サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築　2:分散環境を構築)?	**1**
5	サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**1（※4）**
6	ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**2（※4）**
7	JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）	フルパスで入力してください
8	スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）	フルパスで入力してください
9	Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）	フルパスで入力してください
10	この構成でよろしいですか(y/n)?	**y**

■ intra-mart WebPlatform(JBoss) を利用する場合は、項番 1 で「2:intra-mart WebPlatform (JBoss)」を選択してください。

(1) 「intra-mart AppFramework」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

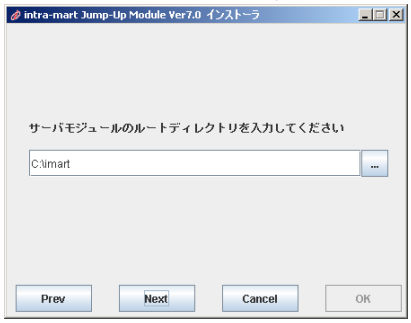


(2) インストール対象のモジュールを選択して、[Next]ボタンをクリックします。

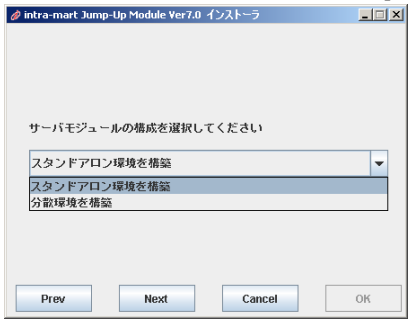


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

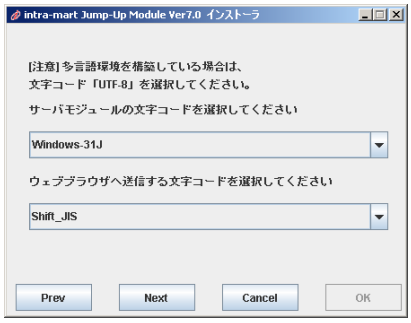
(3) AFW をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



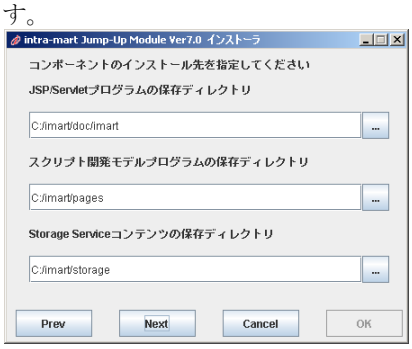
(4) 「スタンドアロン環境を構築」を選択し、[Next]ボタンをクリックします。



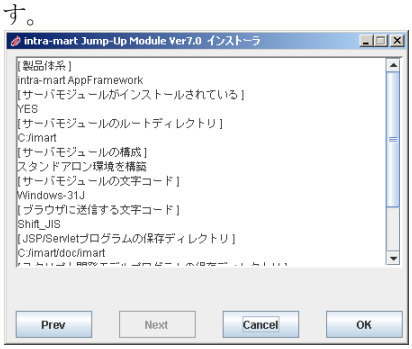
(5) 「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」を選択して、[Next]ボタンをクリックします



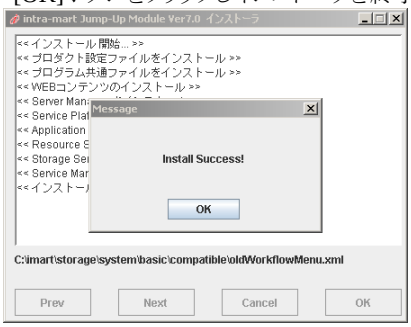
(6) 「JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）」、
「スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）」、
「Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



(7) 設定した内容を確認して間違いがなければ[OK]ボタンをクリックして下さい。インストールが開始されます。



(8) インストールが完了するとダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをクリックしインストーラを終了してください。



Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.4.2 intra-mart AppFrameworkをネットワーク分散型でインストールしている場合

以下のモジュールに対して、ここで説明する手順を繰り返し、インストールしてください。

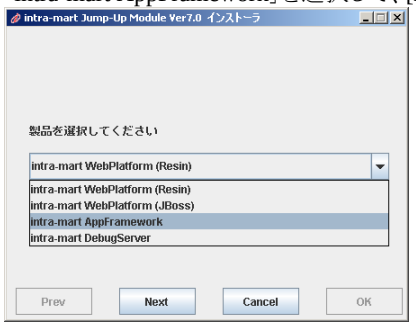
- intra-mart Server Manager
- Application Runtime
- Resource Service
- Storage Service

インストール手順は以下の通りです。

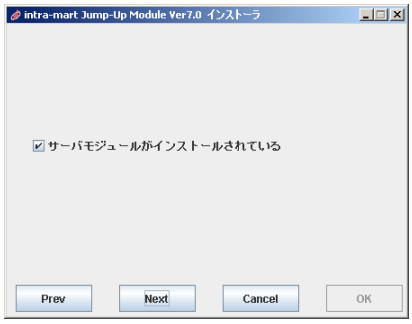
項番	手順	入力
1	製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin)　2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework　　4:intra-mart DebugServer)?	**3**
2	サーバモジュールがインストールされている(y/n)?	**y**
3	サーバモジュールのルートディレクトリを入力してください	**AFW をインストールしたディレクトリをフルパスで入力してください**
4	サーバモジュールの構成を選択してください (1:スタンドアロン環境を構築 2:分散環境を構築)?	**2**
5	Server Manager コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
6	Application Runtime コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
7	Resource Service コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
8	Storage Service コンテンツをインストール(y/n)?	**y**
9	サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**1（※4）**
10	ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**2（※4）**
11	JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）	フルパスで入力してください
12	スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）	フルパスで入力してください
13	Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）	フルパスで入力してください
14	この構成でよろしいですか(y/n)?	**y**

- intra-mart WebPlatform(JBoss) を利用する場合は、項番 1 で「2:intra-mart WebPlatform (JBoss)」を選択してください。
- 項番 11 は、項番 6「Application Runtime コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。
- 項番 12 は、項番 7「Resource Service コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。
- 項番 13 は、項番 8「Storage Service コンテンツをインストール」が選択された場合に表示されます。

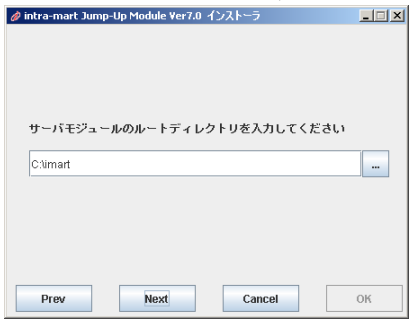
(1) 「intra-mart AppFramework」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。



(2) インストール対象のモジュールを選択して、[Next]ボタンをクリックします。

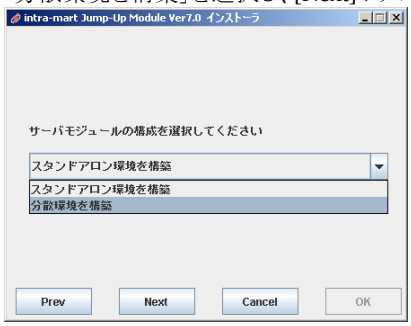


(3) **AFW** をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。

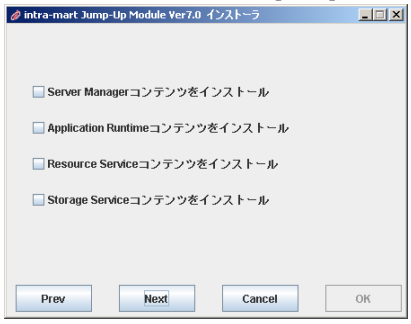


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

(4) 「分散環境を構築」を選択し、[Next]ボタンをクリックします。



(5) インストール対象を選択し、[Next]ボタンをクリックします。



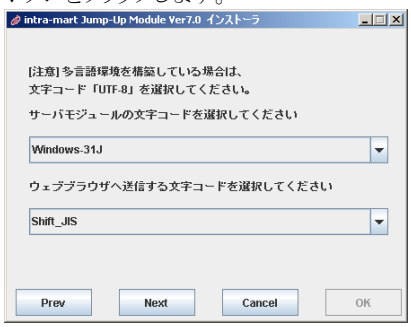
(ア) **intra-mart Server Manager** がインストールされている場合は、
「Server Manager コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(イ) **Application Runtime** がインストールされている場合は、
「Application Runtime コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(ウ) **Resource Service** がインストールされている場合は、
「Resource Service コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

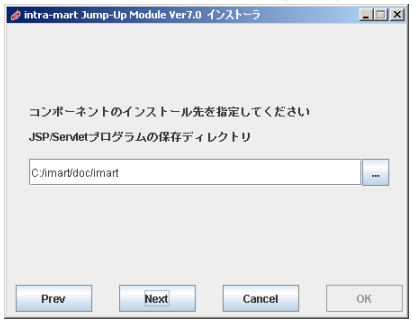
(エ) **Storage Service** がインストールされている場合は、
「Storage Service コンテンツをインストール」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

(6) 「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。



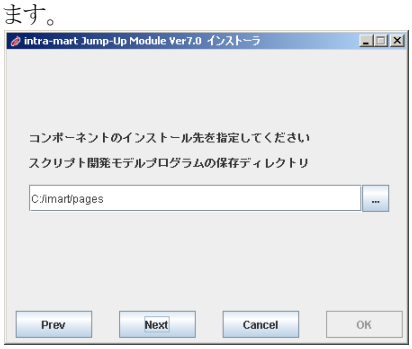
(7) **「Application Runtime コンテンツをインストール」を選択した場合のみ：**

「JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ （※1）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



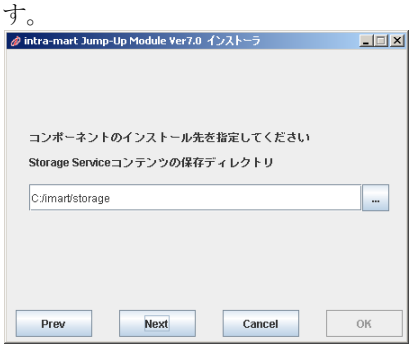
(8) **「Resource Service コンテンツをインストール」を選択した場合のみ：**

「スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ （※2）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



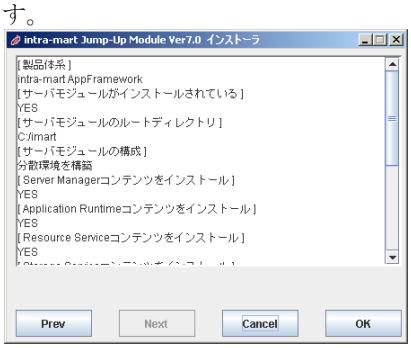
(9) **「Storage Service コンテンツをインストール」を選択した場合のみ：**

「Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ （※3）」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。

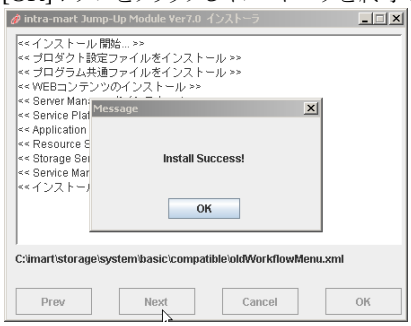


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

(10) 設定した内容を確認して間違いがなければ[OK]ボタンをクリックして下さい。インストールが開始されます。



(11) インストールが完了するとダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをクリックしインストーラを終了してください。

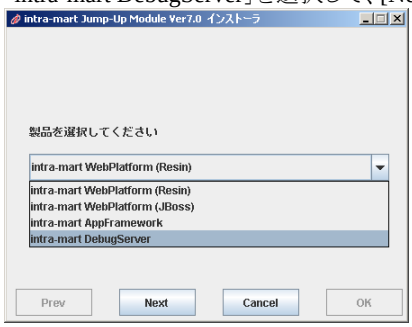


4.3.2.5 intra-mart DebugServerにインストール

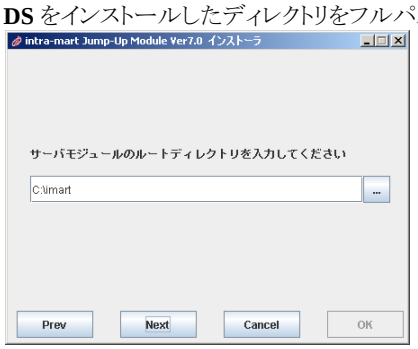
インストール手順は以下の通りです。

項番	手順	入力
1	製品を選択してください (1:intra-mart WebPlatform (Resin) 2:intra-mart WebPlatform (JBoss) 3:intra-mart AppFramework 4:intra-mart DebugServer)?	**4**
2	サーバモジュールのルートディレクトリを入力してください	**DS をインストールしたディレクトリをフルパスで入力してください**
3	サーバモジュールの文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**1（※4）**
4	ウェブブラウザへ送信する文字コードを選択してください (1:Windows-31J 2:Shift_JIS 3:EUC-JP 4:UTF-8)?	**2（※4）**
5	JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1）	フルパスで入力してください
6	スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2）	フルパスで入力してください
7	Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3）	フルパスで入力してください
8	この構成でよろしいですか(y/n)?	**y**

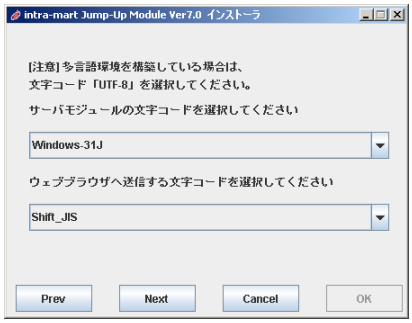
(1) 「intra-mart DebugServer」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。



(2) **DS** をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。

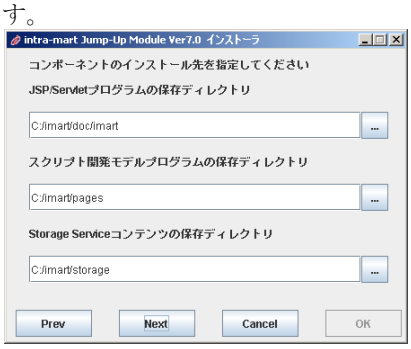


(3) 「サーバモジュールの文字コード」、および、「ウェブブラウザへ送信する文字コード」を選択して、[Next]ボタンをクリックします。

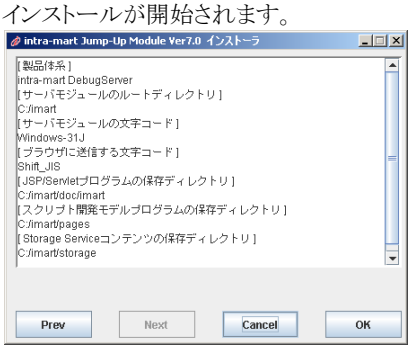


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

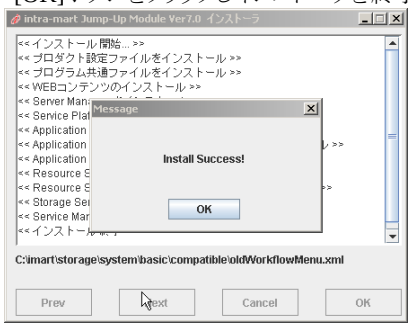
(4) 「JSP/Servlet プログラムの保存ディレクトリ（※1)」、
「スクリプト開発モデルプログラムの保存ディレクトリ（※2)」、
「Storage Service コンテンツの保存ディレクトリ（※3)」をフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



(5) 設定した内容を確認して間違いがなければ[OK]ボタンをクリックして下さい。
インストールが開始されます。



(6) インストールが完了するとダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをクリックしインストーラを終了してください。



4.3.3 intra-mart Ver7.0 起動前の設定

4.3.3.1 ライセンスの登録

IMv7.0 のライセンスを登録します。

※ 試用版としてご利用の場合は、ライセンスを登録する必要はありません。

ライセンスの登録後は、全てのサーバの再起動が必要です。

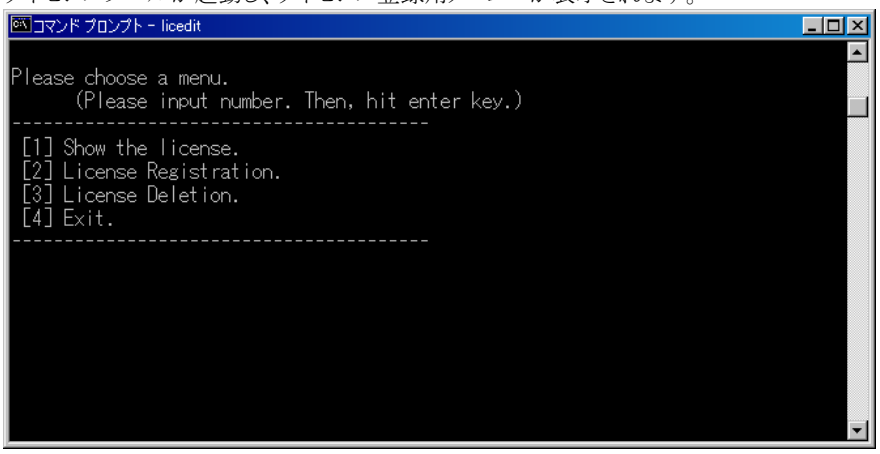
(1) **<%imSM_path%>/bin/tools に移動して**、以下のコマンドを実行します。

（この際、Server Managet は停止させてください。）

Windowsの場合 ： **licedit.bat**

UNIX の場合 ： **licedit.sh**

(2) ライセンスツールが起動し、ライセンス登録用メニューが表示されます。



(3) メニューから[2]を入力して、ライセンスキーを登録します。

正常に登録されると、登録されたライセンスが表示されます。

(4) ライセンスの状態を参照するには、メニューから[1]を入力します。

(5) ライセンスキーの削除を行うには、メニューから[3]を入力します。

登録済みのライセンスキーが表示されるので、削除するライセンスキーの番号を入力してください。

(6) ライセンスツールを終了するには、メニューから[4]を入力します。

(7) 全てのサーバを再起動してください。

【注意】

- 旧バージョンのライセンスキーは登録できません。
- 旧バージョン利用時の最大ユーザライセンス数以上のライセンスキーを登録してください。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.3.2 WebServerの設定

ここでの説明は、**IWP(Resin)をご利用になる場合のみ**、対象となります。
WebServer を IWP(Resin)で利用できるように設定を行います。
ラウンドロビンを利用する場合は、必ず設定が必要になります。

WebServer の設定の方法詳細は、「intra-mart WebPlatform Ver7.0 セットアップガイド」の「3.3 WebServer の設定」を参照してください。
WebServerConnector やラウンドロビンに関する詳細は、「intra-mart WebPlatform / AppFramework Ver7.0 Web Platform 設定ガイド」を参照してください。

4.3.3.3 Application Serverの設定

ここでの説明は、**AFW をご利用になる場合のみ**、対象となります。

4.3.3.3.1 WebSphereの設定

AFW を WebSphere で利用できるように設定を行います。
WebSphere 上で AFW を稼働させる場合には、以下の条件を満たしている必要があります。

- WebSphere に DataSource が登録されていること
- デプロイする WAR ファイルが存在すること
- デプロイする WAR ファイルに DataSource の参照が定義されていること
- **<%imSM_path%>**/conf/data-source.xml が設定されていること

WebSpherer の設定の方法詳細は、「intra-mart AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の「3.3.1 WebSpherer の設定」を参照してください。

4.3.3.3.2 WebLogicの設定

AFW を WebLogic で利用できるように設定を行います。
WebLogic 上で AFW を稼働させる場合には以下の条件を満たしている必要があります。

- WebLogic に DataSource が登録されていること
- デプロイする WAR ファイルが存在すること
- デプロイする WAR ファイルに DataSource の参照が定義されていること
  （WebLogic のツール『WebLogic Builder』で定義することができます）
- **<%imSM_path%>**/conf/data-source.xml が設定されていること

WebLogic の設定の方法詳細は、「AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の
「3.3.2 WebLogic の設定」を参照してください。

4.3.3.4 データベース接続の設定

データベースに関する各設定およびデータベースへの接続前に、本製品に付属のリリースノートに記載されている制限事項をお読みください。

4.3.3.4.1 準備

(1) 本製品が接続するためのアカウントをデータベース側に準備しておいてください。
また、本製品がデータを保存するために利用する表領域を十分に確保しておいてください。

Oracle10g での表領域およびユーザ登録方法の例を、
「intra-mart WebPlatform Ver7.0 セットアップガイド / AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の
「付録 D Oracle10g での表領域、およびユーザの作成方法」にて説明しています。あわせてご参照ください。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.3.4.2 http.xmlの設定

※ **IWP(Resin)**をご利用になる場合のみ、以下の操作を行ってください。

(1) **<%AppRuntime_path%>/lib** ディレクトリに、**JDBC**ドライバファイル（**jar** または **zip**） をコピーしておきます。

(2) **<%AppRuntime_path%>**/conf/http.xml を編集します。
ラウンドロビンを行う場合はすべての Application Runtime がインストールされている Service Platform に設定してください。

http.xml の resin/server タグの中に、<database>タグをご利用のデータベースに合わせて設定してください。
（http.xml の 128 行目から設定のサンプルがあります）

■ **Oracle** の場合

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type>oracle.jdbc.pool.OracleConnectionPoolDataSource</type>
    <url>jdbc:oracle:thin:@<%Oraclel のアドレス%>:<%ポート番号%>:<%インスタンス名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

■ **IBM DB2** の場合

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type>com.ibm.db2.jcc.DB2Driver</type>
    <url>jdbc:db2:// <% DB2 のアドレス%>:<%ポート番号%>/<%DB2 のデータベース
        名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

■ **MS-SQL Server 2005 の場合**

```
<database>
  <jndi-name><%データソース参照名%></jndi-name>
  <driver>
    <type> com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver </type>
    <url>jdbc:microsoft:sqlserver://<%SQL Server のアドレス%>:<%ポート
        番号%>;DatabaseName=<%データベース名%></url>
    <user>DB 接続ユーザ名</user>
    <password>DB 接続ユーザのパスワード</password>
    <init-param>
      <param-name>SelectMethod</param-name>
      <param-value> cursor </param-value>
    </init-param>
  </driver>
  <prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
  <max-connections>20</max-connections>
  <max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.3.4.3 data-source.xmlの設定

<%imSM_path%>/conf/data-source.xml を編集します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source>

    <system-data-source>
        <connect-id>default</connect-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </system-data-source>

    <group-data-source>
        <login-group-id>default</login-group-id>
        <resource-ref-name>java:comp/env/<%データソース参照名%></resource-ref-name>
    </group-data-source>

</data-source>
```

（例：IWP(Resin)の場合）

「4.3.3.4.2 http.xmlの設定」で設定したデータソース参照名が“**jdbc/sample**”のとき
<resource-ref-name>**java:comp/env/jdbc/sample**</resource-ref-name>　となります。

（例：IWP(JBoss)の場合）

「intra-mart WebPlatform Ver7.0 セットアップガイド」の
「3.4.6 データソース設定」で設定したデータソース参照名が“**jdbc/sample**”のとき
<resource-ref-name>**java:jdbc/sample**</resource-ref-name>　となります。

（例：AFW の場合）

「intra-mart AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の
「3.3.1.2.3 WebSphere に DataSource（JDBC）を登録」で設定したリソース参照の名前、および、
「intra-mart AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の
「3.3.2.1.3 WebLogic に DataSource（JDBC）を登録」で設定した参照名が“**jdbc/sample**”のとき
<resource-ref-name>**java:comp/env/jdbc/sample**</resource-ref-name>　となります。

【注意】

- **「Module.database.*」を利用してログイングループのデータベースに接続する場合は、システムデータベースの接続名「connect-id」を、ログイングループ ID と同じ接続名に設定する必要があります。**

4.3.3.5 system-install_compatible.xmlの編集

ジャンプ・アップ・モジュールをインストールすると、**<%imSM_path%>**/conf/system-install_compatible.xml がインストールされます。

このファイルでは、ジャンプ・アップ・モジュールの初期データインポート用ファイル、および、更新リスナーを設定します。

旧バージョンの機能を利用しない場合、必要のない設定をコメントアウトしてください。

4.3.3.5.1 旧ワークフローを利用しない場合

<%imSM_path%>/conf/system-install_compatible.xml の以下の項目をコメントアウトしてください。

キー名称	値
/system-install/basic-data/access-security/menu-file	system/basic/compatible/oldWorkflowMenu.xml
/system-install/basic-data/database/create-file	system/basic/compatible/oldWorkflowCreate.sql
/system-install/basic-data/database/create-file	system/basic/compatible/oldWorkflowDesignerCreate.sql
/system-install/basic-data/database/insert-file	system/basic/compatible/oldWorkflowDesignerInsert.sql
/system-install/listener/role-listener/listener-class	jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.RoleChangedAckwkfListener
/system-install/listener/account-listener/listener-class	jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.AccountChangedAckwkfListener
/system-install/listener/department-listener/listener-class	jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.CompanyChangedAckwkfListener
/system-install/listener/public-group-listener/listener-class	jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.PublicGroupChangedAckwkfListener
/system-install/listener/private-group-listener/listener-class	jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.PrivateGroupChangedAckwkfListener

4.3.3.5.2 旧商品マスタを利用しない場合

<%imSM_path%>/conf/system-install_compatible.xml の以下の項目をコメントアウトしてください。

キー名称	値
/system-install/basic-data/admin-menu-file	system/basic/compatible/oldItemMenu.xml
/system-install/basic-data/database/create-file	system/basic/compatible/oldItemCreate.sql

4.3.3.5.3 アクセスセキュリティ情報（リンクデータ）を利用しない場合

<%imSM_path%>/conf/system-install_compatible.xml の以下の項目をコメントアウトしてください。

キー名称	値
/system-install/basic-data/admin-menu-file	system/basic/compatible/oldLinkMenu.xml

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.3.5.4 コメントアウト例

ここでは、旧ワークフローの更新リスナーをコメントアウトする例を示します。

<%imSM_path%>/conf/system-install_compatible.xml を編集します。

21行目付近の記述を、以下のように修正してください。

■ 修正前

```
<!-- start Listener for old workflow -->
<role-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.RoleChangedAckwkfListener</listener-class>
</role-listener>
<account-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.AccountChangedAckwkfListener</listener-class>
</account-listener>
<department-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.CompanyChangedAckwkfListener</listener-class>
</department-listener>
<public-group-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.PublicGroupChangedAckwkfListener</listener-class>
</public-group-listener>
<private-group-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.PrivateGroupChangedAckwkfListener</listener-class>
</private-group-listener>
<!-- end Listener for old workflow -->
```

■ 修正後

```
<!-- start Listener for old workflow -->
<!--
<role-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.RoleChangedAckwkfListener</listener-class>
</role-listener>
<account-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.AccountChangedAckwkfListener</listener-class>
</account-listener>
<department-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.CompanyChangedAckwkfListener</listener-class>
</department-listener>
<public-group-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.PublicGroupChangedAckwkfListener</listener-class>
</public-group-listener>
<private-group-listener>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.ackwkf.listener.PrivateGroupChangedAckwkfListener</listener-class>
</private-group-listener>
-->
<!-- end Listener for old workflow -->
```

4.3.3.6 外部ソフトウェア接続モジュール利用時の設定

intra-mart Ver4.0～Ver4.2 の外部ソフトウェア接続モジュールを利用する場合のみ、以下の設定が必要となります。

ラウンドロビンを行う場合はすべての Application Runtime がインストールされている Service Platform に設定してください。

4.3.3.6.1 サーブレットの追加

<%AppRuntime_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml を編集します。

```
<servlet>
  <servlet-name>BatchRuntimeController</servlet-name>
  <servlet-class>jp.co.intra_mart.system.servlet.ExternalConnectionServlet</servlet-class>
</servlet>
```

4.3.3.6.2 サーブレットマッピングの追加

<%AppRuntime_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml を編集します。

```
<servlet-mapping>
  <servlet-name>BatchRuntimeController</servlet-name>
  <url-pattern>/BatchRuntimeController</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

4.3.3.6.3 フィルターの追加

```
<filter>
  <filter-name>URLContextFilter</filter-name>
  <filter-class>
      jp.co.intra_mart.foundation.service.client.application.URLContextFilter
  </filter-class>
</filter>
```


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.3.6.4 フィルターマッピングの追加

<%AppRuntime_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml を編集します。

※ 以下マッピングは順不動となります。

```
<filter-mapping>
  <filter-name>URLContextFilter</filter-name>
  <servlet-name>BatchRuntimeController</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
  <filter-name>HTTPContextHandlingFilter</filter-name>
  <servlet-name>BatchRuntimeController</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
  <filter-name>JSSPContextFilter</filter-name>
  <servlet-name>BatchRuntimeController</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
  <filter-name>ExceptionHandlingFilter</filter-name>
  <servlet-name>BatchRuntimeController</servlet-name>
</filter-mapping>
```

4.3.3.6.5 クラスアーカイブ・ファイルの配置

下記の手順で、連携に必要な環境を作成してください。

a	コネクタの含まれるクラスアーカイブ・ファイル **intramart.jar**、**basemodule.jar**、**im_jdk_assist.jar** を連携させるアプリケーションが動作する環境にコピーしてください。
b	コピーしたアーカイブファイルの intramart.jar、im_jdk_assist.jar に対してクラスパスを設定してください。

4.3.3.7 IM-JavaEE Framework利用時の設定

intra-mart Ver 7.0 では サービスフレームワークへのリクエスト URL が以下のように変更されています。

- intra-mart V4.0
  http://<address><port>/imart/ServiceServlet

- intra-mart V7.0
  http://<address><port>/imart/<application id>-<service id>.service

V4.0 のリクエスト URL は必ず「ServiceServlet」となり、アプリケーション ID、サービス ID はリクエストパラメータに含まれますが、V7.0 ではリクエスト URL にアプリケーション ID、サービス ID が含まれ、拡張子が必ず「.service」となります。通常 URL の生成はタグライブラリ(Form、Link、Frame)が行いますのでソースコードを変更する必要はありません。但し、独自に URL を生成しサービスフレームワークにリクエストを送信する処理がある場合はソースコードの変更、またはジャンプ・アップ・モジュールに含まれている FrameworkCompatibleServlet を設定する必要があります。

FrameworkCompatibleServlet はサービスフレームワークへのリクエストをブリッチするサーブレットです。V4.0 形式のリクエストを受信した FrameworkCompatibleServlet は V7.0 形式のリクエストに直しサービスフレームワークへ処理を依頼します。リクエスト URL を V4.0 形式のまま利用するする場合は以下の手順で web.xml に FrameworkCompatibleServlet を追加してください。

この設定は必ず必要なものではありません。アプリケーションが必要とする場合に設定してください。
ラウンドロビンを行う場合はすべての Application Runtime がインストールされている Service Platform に設定してください。

4.3.3.7.1 サーブレットの追加

<%AppRuntime_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml を編集します。

```
<servlet>
  <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
  <servlet-class>
    jp.co.intra_mart.framework.base.service.FrameworkCompatibleServlet
  </servlet-class>
</servlet>
```

4.3.3.7.2 サーブレットマッピングの追加

<%AppRuntime_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml を編集します。

```
<servlet-mapping>
  <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
  <url-pattern>/ServiceServlet</url-pattern>
</servlet-mapping>
```


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.3.7.3 フィルターマッピングの追加

<%AppRuntime_path%>/doc/imart/WEB-INF/web.xml を編集します。

※ 以下マッピングは順不動となります。

```
<filter-mapping>
   <filter-name>RequestCharacterEncodingFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>RequestMessageBodyFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>ResponseCharacterEncodingFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
<filter-name>LuxuryResponseWriterFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>HTTPContextHandlingFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>SessionFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>URLAccessFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>IntramartLocaleFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>FileUploadFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
```

```
<filter-mapping>
   <filter-name>AbsoluteLinkFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>JSSPContextFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>s2filter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>ExceptionHandlingFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>ActiveSessionFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
   <filter-name>DuplicateLoginHandlingFilter</filter-name>
   <servlet-name>FrameworkCompatibleServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
```


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.4 intra-mart Ver7.0 の起動

4.3.4.1 IMv7.0 の起動

IMv7.0 を起動します。

IMv7.0 の起動方法詳細は、「intra-mart WebPlatform Ver7.0 セットアップガイド / AppFramework Ver7.0 セットアップガイド」の「4 起動と停止」を参照してください。

4.3.4.2 Application Serverの起動

AFW をご利用の場合のみ、Application Server の起動が必要となります。
(Application Server とは、WebSphere、WebLogic のことです。)

Application Runtime は Application Server 上で起動します。Application Runtime を起動する場合、あらかじめ Server Manager および ServicePlatform (分散構成時のみ)が起動されている必要があります。
Application Server の起動方法については、各 Application Server のマニュアルを参照してください。

4.3.4.3 ログイングループの作成 ～ 初期データインポート

ログイングループの作成 ～ 初期データインポートまでを行います。

ログイングループの作成 ～ 初期データインポートまでの手順は、「intra-mart WebPlatform / AppFramework Ver7.0 システム管理者 操作ガイド」の以下を参照してください。

- 「1.1.1 システム管理者の業務とログイン」
- 「1.2.2 ライセンス」
- 「1.2.3 ログイングループの設定」
- 「1.2.4 ログイングループライセンス」

【注意】

- サンプルデータのインポートは行わないでください。
- IMv7.0 スタンダード版でインストールした場合、「4.3.3.5.1 旧ワークフローを利用しない場合」の設定を行ってください。
  この設定を行わないと、初期データインポートの実行時にエラー(java.lang.ExceptionInInitializerError)が発生します。

4.3.4.4 Viewの作成、および、初期データ登録

4.3.4.4.1 互換用Viewの作成

ジャンプ・アップ・モジュールでは、IMv7.0 と旧バージョン間の DB テーブル構造を互換するために、View を利用します。

ここでは、その View を作成します。View 作成用の SQL ファイルがご利用の DB 毎に用意されていますので、該当の SQL ファイルを実行してください。

Oracle	**<%StorageSrv_path%>**/storage/system/basic/compatible/appCreateView_Oracle.sql
SQLServer	**<%StorageSrv_path%>**/storage/system/basic/compatible/appCreateView_SqlServer.sql
DB2	**<%StorageSrv_path%>**/storage/system/basic/compatible/appCreateView_DB2.sql

4.3.4.4.2 b_m_grouping_clsテーブルの初期データ登録

以下の SQL ファイルを実行して、b_m_grouping_cls テーブルの初期データを登録してください。

- **<%StorageSrv_path%>**/storage/system/basic/compatible/appInsertCompatible.sql

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.4 プログラムファイル、および、データの反映

「4.1 旧バージョンのバックアップ」 および「4.2 データ変換(旧バージョン → IMv7.0)」で作成したデータを IMv7.0 に反映します。
(これ以降の作業を行う前に、IMv7.0 の全サーバを、一旦停止してください。)

4.4.1 プログラムファイルの移行

旧バージョンの intra-mart で作成したプログラムファイルを移行します。

ここでは、「4.1.3 プログラムファイルのバックアップ」で作成した以下のデータを反映します。

項番	Server 名	バックアップファイル
1	Application Server (WebServerConnectoer 配下のファイル含む)	**doc/imart/gif** ディレクトリ配下の全ファイル **doc/imart/img** ディレクトリ配下の全ファイル **doc/imart/startpack** ディレクトリ配下の全ファイル **doc/imart/sfa** ディレクトリ配下の全ファイル
2	Information Server	**pages/startpack** ディレクトリ配下の全ファイル **pages/sfa** ディレクトリ配下の全ファイル
3	File Server	**storage/startpack** ディレクトリ配下の全ファイル

■ 項番 1 のファイルを、以下のディレクトリにコピーします。

AFW または **DS** を利用している場合、または、**IWP** で im HTTP サーバを利用している場合

- **<%AppRuntime_path%>/doc/imart** ディレクトリ

WebServerConnector を利用している場合

- **<%web_path%>**ディレクトリ

■ 項番 2 のファイルを、**<%ResourceSrv_path%>/pages/src** ディレクトリにコピーします。

■ 項番 3 のファイルを、**<%StorageSrv_path%>/storage** ディレクトリにコピーします。

【注意】

■ **AFW をご利用の場合は、プログラムファイルの移行後に再デプロイが必要です。**

■ **コピーするファイルは、IWP/AFW/DS をインストールした際に指定した「サーバモジュールの文字コード」と同一の文字コードに変換する必要があります。**

※ ただし、ResourceSrv 配下のファイルに関しては、任意の文字コードでプログラムの実行を可能にする機能があります。(この機能を利用することで、項番 3 のファイルを文字コード変換なしに移行することが可能です)詳細は「intra-mart WebPlatform / AppFramework ver7.0 Service Platform 設定ガイド」の「4.2 source-config.xml」を参照してください。

以下のディレクトリ構成となるようにコピーしてください。

■ スタンドアロンで運用する場合の例

```
<%im_path%>
│
├ doc/imart/
│  │
│  ├ gif/
│  │                  ┐
│  ├ img/              │ 項番 1 のファイルです
│  │                  │
│  ├ startpack/       ┘
│  │
│  └ sfa/
│
│
├ pages/src/
│  │                  ┐
│  ├ startpack/       │ 項番 2 のファイルです
│  │                  ┘
│  └ sfa/
│
│
└ storage/
   │                  ┐
   └ startpack/       ┤ 項番 3 のファイルです
```

■ WebServerConnector を利用している場合の例

```
<%web_path%>
│
├ gif/
│                     ┐
├ img/                │
│                     │ 項番 1 のファイルです
├ startpack/          ┘
│
└ sfa/
```


Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.4.2 初期起動ファイルの設定

intra-mart 起動時に実行するファイル(以下、初期起動ファイル)の設定を行います。

ISPv3.2 では、以下のファイルが intra-mart 起動時に実行される必要がありました。

- <%Infomation Server をインストールしたディレクトリ %>/pages/startpack/init.js
- <%Infomation Server をインストールしたディレクトリ %>/pages/sfa/init.js
- <%Infomation Server をインストールしたディレクトリ %>/pages/wkf/init.js

上記ファイルを IMv7.0 起動時に実行させるために、以下のファイルを編集します。

- <%ResourceSrv_path%>/pages/platform/src/compatible/init.js

✧ 修正前

```
function init() {

    // Please include initialize script.
    // Example : include("sample/init");

}
/* End of File */
```

✧ 修正後

```
function init() {

    // Please include initialize script.
    // Example : include("sample/init");
    include("startpack/init");
    include("sfa/init");
    include("wkf/init");
}
```

【注意】

- **初期起動ファイルの設定は、必ず<%ResourceSrv_path%>/pages/platform/src/compatible/init.js に記述してください。それ以外のファイルに設定した場合、初期起動ファイル、および、初期起動ファイルから呼び出されるプログラム内で、ジャンプ・アップ・モジュールで新たに用意された互換 API を利用していると起動に失敗します。**

4.4.3 データベース・データのインサート

旧バージョンで利用していたデータベース・データを、IMv7.0 で利用するデータベースに反映します。

ここでは、「4.1.2 プログラムで使用していたデータのバックアップ」で作成した以下のデータを反映します。

- 旧ワークフロー関連 DB データの SQL INSERT 文
- 旧商品マスタ関連 DB データの SQL INSERT 文
- ISPv3.2 関連 DB データの SQL INSERT 文

※ データを反映する前に、ISPv3.2 のテーブルが作成されている必要があります。
ISPv3.2 に付属の DDL を実行してテーブルを作成してください。(ISPv3.2 関連テーブルの DDL ファイルは、Information Server がインストールされたディレクトリの pages/startpack/data/basic/isp_ddl.sql にあります。)

4.4.4 アプリケーション共通マスタ・データのインサート

旧バージョンで利用していたアプリケーション共通マスタ・データを、IMv7.0 で利用するデータベースに反映します。

ここでは、「4.2.1アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換」で作成した以下のデータを反映します。

- profile.sql
- company.sql
- companyAttach.sql
- category.sql
- post.sql
- public.sql
- publicAttach.sql

【注意】

- **「category.sql」は、旧バージョンの intra-mart で利用していた分類区分詳細が全て含まれています。SQL ファイルの実行前に「category.sql」を編集して、移行先の環境に必要な最低限の分類区分詳細に編集してください。(ユーザが新規に作成した分類区分詳細だけに編集することをお勧めします)**

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.4.5 アクセスセキュリティ情報のインポート

旧バージョンで利用していたアクセスセキュリティ情報を、IMv7.0 に反映します。

4.4.5.1 メッセージデータの移行

「4.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換」で作成した以下のデータを反映します。

- message_ja.properties

上記ファイルを**<%imSM_path%>/conf/message** ディレクトリにコピーしてください。

4.4.5.2 アクセスセキュリティ情報のインポート

「4.2.1 アクセスセキュリティ情報、および、アプリケーション共通マスタ・データの変換」で作成した以下のデータを反映します。

- user.xml
- menu.xml
- role.xml
- calendar.xml
- batch.xml

(1)上記ファイルを**<%StorageSrv_path%>/storage** ディレクトリにコピーします
(2)IMv7.0 を起動します。
(3)ログイングループ管理者でログインします。
(4) [ログイングループ管理]-[アクセスセキュリティ情報入出力]-[インポート]メニューを開きます。
(5)ファイル名を入力し、インポートを実行します。

4.4.5.3 アクセスセキュリティ情報(リンクデータ)のインポート

「4.1.1.1 一括バックアップ」で作成した以下のデータを反映します。

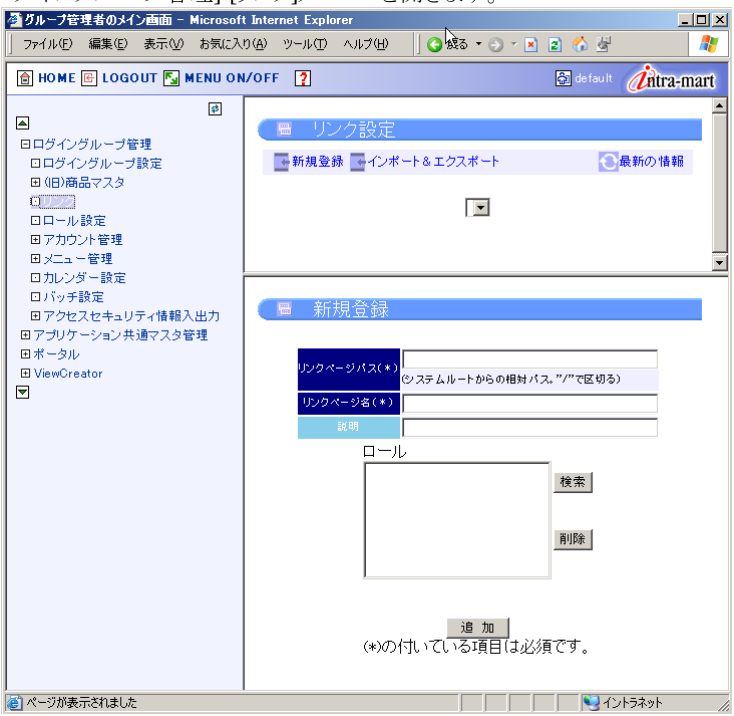
- link.txt

(1)上記ファイルを**<%StorageSrv_path%>**/storage ディレクトリにコピーします

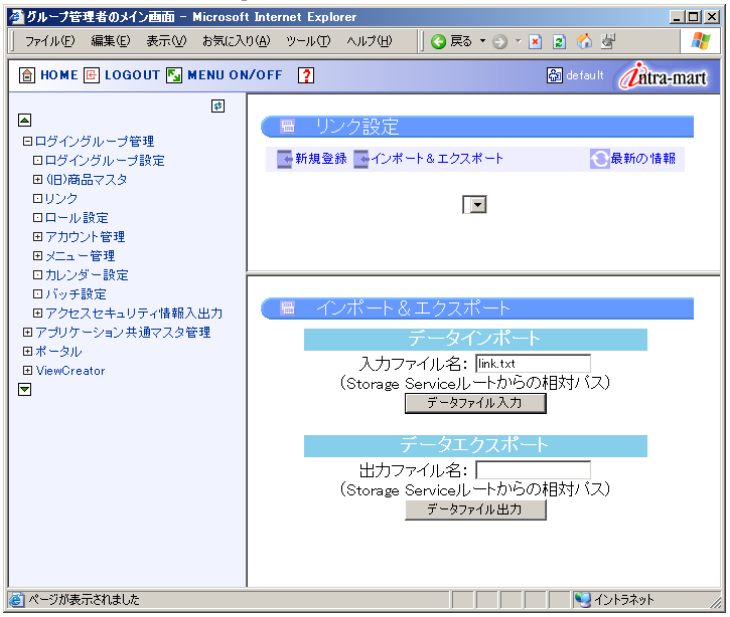
(2)IMv7.0 を起動します。

(3)ログイングループ管理者でログインします。

(4)[ログイングループ管理]-[リンク]メニューを開きます。



(5)[インポート＆エクスポート]アイコンをクリックします。



(6)ファイル名を入力し、インポートを実行します。

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

intra-mart ジャンプ・アップ・モジュール Ver.7.0
インストールガイド

2009/10/30 第三版

Copyright 2000-2008 株式会社 NTT データ イントラマート
All rights Reserved.
TEL: 03-5549-2821
FAX: 03-5549-2816
E-MAIL: info@intra-mart.jp
URL: http://www.intra-mart.jp/